

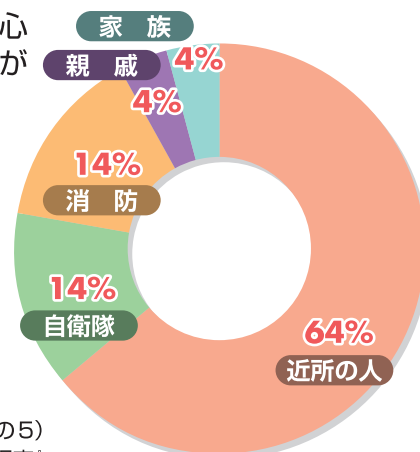
自主防災組織について



羽生市の自主防災組織の組織率は平成23年現在で100%となっております。今後は、自主防災組織の育成が、羽生市でやるべきこととなります。ここでは、自主防災組織がどのような組織なのか説明します。

自主防災組織とは

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで、地域の人々が自発的に防災活動を行う組織です。東日本大震災が発生したとき、交通網の寸断、火災などにより、消防や警察などの防災機関が十分な対応をとることができませんでした。そのような大災害のとき力を発揮するのが、「地域ぐるみの協力体制」です。実際に阪神・淡路大震災では、右のグラフのとおり、地域住民が自発的に救出・救助活動をしていることがわかります。



〔1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5)
神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査〕
宮野道雄(大阪市大) 他 1996年日本建築学会学術講演梗概集)

人命救助をした人の内訳

自主防災組織の役割

災害に備えるための活動を
日ごろから行います

平常時

地域内の安全点検

防災知識の普及・啓発

防災訓練

災害発生時に、人命を守り、
被害の拡大を防ぐために行動します

災害時

初期消火

避難誘導

救出・救助

情報の収集・伝達

避難所の管理・運営

消防団・水防団とは

消防団は消防組織法、水防団は水防法という法律に基づき、羽生市で組織している団体です。

消防団の一般的な活動

消防団は、震災・水害などの地域の防災力の中心として、消防署と連携しながら消火・救助などの活動を行います。日常においても、各家庭の防火指導や防火訓練、巡回広報など、住民生活に密着した活動を行っています。

水防団の一般的な活動

水防団は、洪水の被害を最小限にとどめるための活動を行います。日常では、水防月間や水防訓練などの機会を通じて地域住民に対し、水防の重要性の周知や水防意識の高揚のための啓発、訓練及び危険箇所の巡回・点検などの活動を行っています。